

ご自由にお持ち帰りください



公益財団法人 宮城厚生協会

坂総合病院

NEWSaka

2017.1
No.15

発行責任者：坂総合病院院長 内藤 孝

謹賀新年



病棟から泉が岳方面を望む

- 1 写真（病棟から泉が岳方面を望む）
- 2 管理部（院長・所長・看護部長）新年のごあいさつ
- 3 「坂総合病院地域連携の会」開催（12/2）
- 4 市民公開講座「肺がんの最新治療について」（12/3）
- 5 職場紹介（10階病棟）
食養室管理栄養士から（8回目）
- 6 伴先生講演（11/19）、シリーズ7回目リハビリ室のお仕事
- 7 1月外来診療案内
- 8 インフォメーションほか

病院理念

わたしたちは、患者さまの権利を尊重し、
共感・協同・平等・安全の
医療をめざします。





安全で最適な医療を提供して参ります

坂総合病院院長 内藤 孝



明けましておめでとうございます。超高齢社会に向けて地域医療は大きな転換点に立っています。高齢者人口が増え本来であれば医療・介護にはこれまで以上の手厚い対応が求められるわけですが、財政困難を理由に政府は安上がりな医療、サービスの切下げで対応しようとしています。県単位で策定される病院の機能分担を決める地域医療構想ではコストのかかる急性期病床の削減、転換が進められています。宮城県も例外ではありません。また診療報酬の面でも急性期病院を続けることはますます大変になってきています。

坂総合病院は現在2市3町で発生する救急車の約35%を受け入れており、さらに年々増やしています。地域の先生方からの紹介も増えています。私たちは今後様々な困難があっても、この地域の急性期医療を担っていきたくと考えています。

急性期病院として続けて行くには地域の皆様に具合悪いときに利用してもらうことが一番です。そのことが職員のやる気を高め、病院の質と役割の向上につながるのです。一人一人に安全で最適な医療を提供して参りますので、いざという時に坂総合病院を頼りにしていただければ幸いです。

皆様にとって、また病院にとっても今年が良い1年になることを願っています。本年もよろしく願っています。



地域医療に貢献できるようがんばります



坂総合クリニック所長 小幡 篤

新年おめでとうございます。今年は坂総合病院から外来部門がクリニックとして独立して18年目になり、坂総合病院が地域医療支援病院となって10年となります。

地域医療支援病院は地域機能分担の観点から紹介を受けることの機能重視から、紹介状のない受診制限がされる制度でもあるため、坂総合クリニックはかかりやすい医療機関として制度上の制約を埋める役割も担ってきました。

しかしながら限られた施設や人材を効率的に地域医療に生かすためには、他医療機関との役割分担と連携は欠かせません。病状の安定した慢性期の方の日常的な管理は近くの医療機関にお願いしながら、必要な時に必要な医療を提供できる体制を整えていくことは地域の患者さんを協力し守っていく上で大切です。順次病状の安定した方の地域の医療機関へのご紹介を進めていくことになります。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後目指す方向に進める過程として受け入れていただければ幸いです。

地域医療を担う人材育成も重要な役割として取り組んできましたが、最近は毎年定員いっぱいの研修医を受け入れており、地域での外来診療を学ぶ重要な役割を果たす状況になっています。特にこの地域で開業されている先生方の後継者になる可能性のある医師が多数集まってきたことは、この間の取り組みが一定評価されてきていることだとも思います。

現在、地域の外来診療などを担える総合的診療可能な医師育成にも役割を果たせるようになり、長い目で見てさらに地域医療に貢献できるよう継続していきたくと思います。



地域で安心して住み続けられるよう看護活動に努力します



坂総合病院看護部長 高橋美智子

坂総合病院看護部長 地域では、少子・超高齢化加速の中で、高齢者の一人暮らしや夫婦二人暮らしが増えると予測されています。何らかの疾患を抱えながらも、生活を維持できることへの看護支援が求められています。今後さらに地域連携を強化していかなければなりません。

坂病院看護部は、地域支援病院として救急医療を求められていることから「老年看護と救急看護をベースとした、外来～入院～地域(外来)への切れ目のない看護を構築する」ことを目標とし、患者宅訪問などの地域体験研修、救急看護チームの育成、老年看護の全看護師対象研修などを中心とした育成を重視し取り組んでいます。超高齢化社会を向かえるにあたり、住み慣れた自宅へとつなげる看護をどう展開していくかという視点に立って考えていかなければならないと思っています。

急性期病院の機能を維持するために9月に一部病棟構成する診療科を組み替えました。10F病棟は緩和ケア科、糖代謝科、小児科の混合病棟になり、8Fは循環器科単独病棟、4Fは産科単独病棟へと変わりました。病棟構成変更により、より地域医療への貢献ができる体制となりました。地域住民の方々や、地域医療・介護施設からの期待感も高く、要望に応えられるよう看護も充実させなければならぬと実感しています。

地域の高齢化が進み医療と介護の需要が高まる中でも、地域で安心して住み続けられる医療を提供し地域に貢献できるよう努力してまいります。本年もよろしく願っています。

「坂総合病院地域連携の会」開催

地域医療を良くするため改めて地域連携重視を確認

坂総合病院副院長 富山 陽介

12月2日（金）午後6時30分からグランドパレス塩釜で平成28年度第2回地域連携の会を開催しました。25名の登録医の参加をいただき、当院からは31名の医師が参加しました。

第1部 学習講演会

活発に質疑応答・意見交換が

今回は3題の学習講演を企画しました。学習講演会の冒頭に、内藤孝院長が地域医療に寄与するために地域連携をますます重視していく旨のあいさつをしました。

はじめに佐藤孝洋医師（産婦人科医長）が『出生前診断の最新のトピックス』と題して講演しました。東北大学での活動を交えながら臨床の立場から出生前診断が注目されるようになった背景や現状の問題点を報告しました。

次に境志穂医師（小児科医長）が『川崎病の早期診断』と題して、当院のデータを紹介しながら早期の診断の重要性を述べました。冠動脈病変形成に至った事例などを示しました。登録医の先生方からも活発な質疑やご意見などをいただきました。

最後に小鷹日出夫先生（おだかクリニック院長）より『myカルテ紹介』をご講演いただきました。患者さんと情報を共有することの意義に加え、カルテの記載を整備することが診療の質を維持する上で有効であることを強調されました。また多忙な日常業務の合間に行うことのご苦労も話されました。「日経ヘルスケア」という雑誌に先生の取り組みが掲載されたということでした。



報告する佐藤孝洋医師



会場風景

第2部 懇親会

会話弾み大いに盛り上がる

講演会の後に懇親会で登録医の先生方と当院医師との交流を行ないました。塩釜医師会副会長の赤石隆先生（赤石病院理事長）に乾杯の音頭をとっていただきました。



乾杯ご発声は赤石隆先生

懇親会の最中に当院の医師たちが、それぞれの診療科を紹介し最近の活動などをアピールしました。各テーブルでは診療に関する話題から楽しい雑談まで会話が弾んでいました。当院の職員も直接お会いして話すことの無かった先生方と交流することができました。

松田好郎医師（地域連携室室長）が閉会のあいさつをして、松田医師が地域連携室室長となってからの10年を振り返りながら参加いただいた先生方への謝辞を述べお開きとなりました。

◇テーマ：「肺がんの最新治療について」

12月3日（土）の午前、利府町民交流館研修室（利府町役場内）において、地域の方々約40名が参加し市民公開講座が開催されました。

利府町で「市民公開講座」開催



はじめに、病院を代表して富山陽介副院長があいさつしました。まず、坂病院をご存知でしょうか？と問い、坂病院の医療活動の紹介や、「地域医療支援病院」として果たしている役割などを説明し、『本日の講座でも、ぜひ有意義な時間を過ごしていただければと思います。』と述べました。



◇演題①：『肺がんの最新治療について』

渡辺洋医師（呼吸器科科長）が報告しました。まず「肺がんとは」として、肺がんの原因「最大の要因はタバコ（受動喫煙も）」について説明し、肺がんの症状、検査・診断の流れをフローチャートやCT・PETなどの写真で示し、また、病期分類として、I期～IV期の説明（II期までは手術有効）がされました。肺がんの組織分類（細胞の形）についてふれ、遺伝子検査として「がん細胞」の遺伝子を調べることの説明がありました。

治療方法の種類として①手術（胸腔鏡手術の目的）②放射線治療（ただし陽子線治療は保険外）③抗がん剤や今話題の高額薬 オプジーボの紹介では非小細胞肺がん（IV

期）の薬物療法、治療の原則の事など⑤緩和治療について、順番に説明されました。

免疫療法の今後の課題として、分子標的薬の効果は高く改善（長生き）できるようになったが、高い医療費の問題があること、効果がない例の方が多いなどあるが、近々に新たな薬剤（キートルーダ）が発売予定であることも紹介されました。

また、NHKスペシャルの「がん治療革命が始まった」で当院も紹介（登録）された（宮城県内は3施設）ことも報告し、今後も最新の情報を提供していきたいと述べました。

終了後、参加者からたくさんの質問があり一つ一つていねいに答えました。



◇演題②：『肺がんを予防しよう』

佐藤知佳子保健師が報告しました。日本人における「がんの要因」として、タバコはがんの最大の原因で約60%であること、喫煙による死亡で肺がんは約70%であり、タバコの害は毒ガスと同じであり、副流煙の方が害の多いことも報告されました。

また、タバコの三大有害物質として、ニコチン、タール、一酸化炭素について説明し、1日20本吸う人は年間でコップ1杯のタール

を飲んでいることになること、三次喫煙として、臭いが髪の毛やカーテン・壁などに付着することの害もあげられました。

さらに、ニコチン依存症（ニコチン離脱症状など）とその形成について述べ、意志が弱いからやめられないだけではないこと、タバコ依存の治療としての薬物療法、行動療法の説明をし、安全なタバコ製品はなく、喫煙でストレスはとれない、とも述べました。

そして、早期にタバコから離れられるよう、禁煙外来受診のすすめなど強調しました。

たくさんの質疑応答がありました



10階病棟スタッフのみなさん

10階病棟は糖代謝科・小児科・緩和ケア科の混合病棟です。もともとは緩和ケア科と退院支援が必要な高齢の方の受け入れ病棟でしたが、病棟再編により昨年8月に4階から小児科が、9月に糖代謝科が移動してきました。

糖代謝科は、主に糖尿病の治療や教育をしています。月曜日から金曜日まで糖尿病の知識や栄養管理などの指導が行われています。また健康運動センター「のびのび」による運動療法も行っています。スタッフは、患者様に退院後も指導を継続していただくために理解度を確認しながら指導しています。

小児科は、小児疾患の治療を行っています。疾患治療だけでなく、お子さんや付き添われているご家族とも関わりあいながら、病気だけでなく育児について相談されることもあります。

今回の移動でプレイルームは少し狭くなりましたが、スタッフの工夫が随所にちりばめられています。10階なので眺めはとてよく、海がみえる、電車が走っていった、などお子さんたちが窓から外をよく眺めています。(夏になるとうまくいけばお祭りの花火が見えるかも)

緩和ケア科は、様々な不安や苦痛を持つ患者様だけではなく、ご家族に寄り添いながらケアを行っています。病気の受け止め方や苦痛はそれぞれ違います。それらを受け止め、スタッフ間で共有し日々のケアにあたります。

また、患者様が楽しめる行事もいろいろ開催しています。最近では病棟全体でクリスマス会を行っています。今回の再編でスタッフも異動しました。3ヶ月经過し、新環境に私たちも慣れつつあります。今後いろいろと改善しながらケアに取り組んでまいります。

坂総合病院食養室 管理栄養士から

管理栄養士 鈴木 亜紀



第八回

『おせち料理』



おせちは御節と書き、正月や五節供などの節日(せちひ)に神に供える御節供(おせちく)の略です。しかし、おせちは正月の食べ物と一般には考えられていま

す。現在はおせち料理といえば正月の重詰をさしています。

おせち料理には、それぞれにめでたい由来があり、そのいくつかをあげてみました。

-  数の子
→子孫繁栄
-  黒豆
→無病息災
-  田作り
→五穀豊穡
-  こぶ巻き
→よろこぶ



おせち料理は食品の品数が多く、魚、餅、豆類などの炭水化物たんぱく質や、こんにゃく、ごぼう、れんこんなどの食物繊維の豊富なものが含まれています。ただし、カルシウム、ビタミンA、ビタミンCなどは不足気味です。

また、冷蔵庫のなかった時代でも保存がきくようにと濃い味付けにしてあるものが多いので、塩分、糖分の取りすぎに注意しましょう。なるべく手作りにし、薄味に仕上げましょう。薄味の料理をおいしく作るコツは、「しっかりとダシをとること」です。

お正月で体重をふやさないために、適度に体を動かすようにしましょう。

人間の健康を大局的に見ることが大切



報告する伴先生

11月19日(土)、当院教育ステーションに於いて、伴信太郎先生(名古屋大学医学部附属病院・総合診療科教授)による症例検討会及び講演会を開催しました。

初期研修医を対象に行なった症例検討会では、NHKの番組でお馴染みの「ドクターG」と題して、患者への詳しい問診や身体診察などから得られた情報を手掛かりに、診断にたどり着くまでの「臨床推論」を実際の症例を通して学びました。

講演テーマ:「総合診療とは何か〜ドクター Gを超えて」

午後の講演会は近隣の先生方にもご参加いただき、「総合診療とは何か〜ドクター Gを超えて」をテーマにお話を伺いました。伴先生は「総合診療医」の専門性について、病態診断の専門家であるとともに、「日常的な健康問題へ包括的に対応する」ものであるとし、人間の健康を大局的に見ることの大切



熱心に聴講する参加者

さを話されました。

また後半では、病因がはっきりしない様々な病態(MUS)について、患者の苦しみに共感を示し症候増悪の悪循環に陥らないようにアドバイスすることが大事であることが話され、東洋医学(漢方)を含む対応法が紹介されました。

参加者からは、「問診(真摯に患者に耳を傾けること)の大切さを実感した」「患者に寄り添うことが大事だと感じた」などの感想が出され、研修医にとって気づきの多い学習企画となりました。



心臓リハビリ集団療法(ストレッチ)

当院の心臓リハビリテーションでは、体制整備に伴い、いよいよ2016年11月から集団リハビリテーション(以下、集団リハ)が始まりました。毎週月、水、金曜日の9時から10時からの各1時間、本院2階心疾患リハビリテーション室にて、スタッフ2名と患者様2~4名で和気あいあいと楽しく行なっています。

参加される患者様はみなさん心臓疾患をお持ちですが、それぞれ病態や体力が異なりますので、経験を積んだスタッフが安心・安全にリハビリを実施できるよう努めております。

シリーズ
さまざまなリハビリテーション その2

第7回 「心臓リハビリテーション」
って知っていますか?

心臓リハビリテーションチーム
理学療法士 心臓リハビリテーション指導士
熊谷真木子

集団リハの良いところは運動だけではなく、心臓疾患の患者様同士、お話ししながら、お互いの経験を共有し、学びながらリハビリを実施できるのではないかと思います。興味のある患者様はお気軽にお声がけください。



心臓リハビリ集団療法(自転車)

外 来 診 療 案 内

2017年1月

坂総合病院（本院）

各科外来診療日・時間

科	診療	月	火	水	木	金	土	備考
脳神経外科	午前	○				○		
	午後					○		
神経内科	午後	○						
消化器科	午前	○	○	○	○	○		
リハビリテーション科	午前		○	○	○	○		
	午後	○						
末梢血管外来	午前	○	○					
甲状腺外来	午後		○診療日隔週					

●医師体制の都合により変更する場合があります。ご了承ください。

総合病院 院長 内藤 孝 電話 022-365-5175(代)

坂総合クリニック1号館

各科外来診療日・時間

科	診療	月	火	水	木	金	土	備考
外科	午前	○	○	○	○	○		
腎臓内科	午前			○				
整形外科	午前	○	○	○				
	午後	○		○				
泌尿器科	午前	○	○		○	○	○診療日隔週	
形成外科	午前	○		○				○診療日隔週
	午後		○			○		
耳鼻咽喉科	午後	受付13:00～16:00		受付13:00～16:00			受付8:30～11:30	
産婦人科	午前	妊婦健診～11:30迄 ○11:30迄	妊婦健診～11:30迄 ○11:30迄	妊婦健診 ○11:30迄	妊婦健診 ○	妊婦健診～11:30迄 ○	○	
	午後	○ 妊婦健診				妊婦健診		
精神神経科	午前	○	○	○	○	○	○診療日1/21予定	
	午後			○		○		
眼科※1	午前	○11時迄	○	○		○	○診療日隔週	
	午後		○診療日隔週	○	○			
皮膚科※2	午前		○			○	○診療日隔週	
	午後		○14:30～16:00			○14:30～16:00		
血液科	午後		○			○		
禁煙外来	午後			○診療日隔週				

＜各科外来受付時間＞

●午前
新患8:30～11:30
再来8:30～11:30

●午後
予約制となっています

※1 眼科の診療は医師体制上の都合により、予約以外の診察をお受け出来ない場合があります。ご了承ください。

※2 皮膚科の診療は医師体制上の都合により、予約外の方は緊急性のある方以外はお受けできません。ご了承ください。

坂総合クリニック2号館

※内科一般外来は午前からのみの診療となります（午後は休診となります）。

各科外来診療日・時間

科	診療	月	火	水	木	金	土	備考
内科	午前	○	○	○	○	○	○	
	午後							
糖尿病代謝科	午前	○	○	○	○	○	○診療日隔週	
	午後	○	○		夜間外来			
循環器科	午前	○	○	○	○		○月1回	
	午後		○		夜間外来（高血圧）	ペースメーカー外来 診療日隔週		
呼吸器科	午前	○		○		○	○月1回	
	午後	○	○	○				
緩和ケア科	午前				○			
漢方科	午前	○	△	△		○	○月2回	
	午後	○	△	△	△夜間外来	○		
高脂血症外来	午前			○				
心臓血管外科	午後			○		○		
小児科	午前	○	○	○	○	○	○	
	午後	予防接種 受付13:30～14:30		育児検診				

●当院の外来は全面予約制ですので、来院前にお電話下さい。漢方は診療変更が多い日を△にしています。

電話番号：予約コールセンター 022-361-8288 *12月30日～1月3日まで年末年始休診となります。

電話予約受付時間：平日8:30（小児科のみ8:00から開始）～16:30、土曜日8:30（小児科のみ8:00から開始）～11:30

●医師体制の都合により変更する場合があります。ご了承願います。

坂総合クリニック 所長 小幡 篤 電話 022-361-7011(代)

お知らせ

坂総合病院 市民公開講座

主催：(公財)宮城厚生協会坂総合病院

2017

2/25 sat **日**

14:30 ~ (開場14:10)

多賀城文化センター
2階展示室



内容

講演Ⅰ

「肺がんの最新の治療について」

坂総合病院呼吸器科科長 **渡辺 洋**先生

講演Ⅱ

「アイバンクの役割について」

東北大学医学部眼科学講座講師 **横倉 俊二**先生

講演Ⅲ

「緑内障から自分を守るために
知っておくべきこと」

東北大学医学部眼科学講座教授 **中澤 徹**先生

*がん死亡者数部位別1位の「肺」に関する最新の治療40歳以上の20人に1人の割合で罹る「緑内障」について専門医師から講演です。

定員
150名

参加料
無料
ご予約不要

お問い合わせ 坂総合病院地域連携室 TEL 022-365-5175(代)

地域医療連携センターから

○紹介の状況

	紹介数	逆紹介数
2016年8月	745	765
9月	660	762
10月	675	833
11月	717	832

(坂総合病院、クリニックの合計数です)

○ご紹介の際は、地域医療連携センターまでご連絡下さい。
※坂総合病院・坂総合クリニックは予約診療を行なっています。

お気軽に地域医療連携センターまでお問い合わせ下さい。
尚、緊急性の高い症状の場合や入院加療も含めての診療
ご依頼の場合は、お電話にてその旨をお知らせ下さい。

《開設時間》

●平日 / 8時30分～17時 ●土曜日 / 8時30分～12時30分

TEL 022-361-4700

※時間外休日は、救急処置室に繋がります。

コールセンターから

○診療の予約・変更・お問い合わせは、コールセンターで承ります。

TEL 022-361-8288

平日(月～金)：8時30分～16時30分

(小児科のみ8時から開始)

土曜日：8時30分～11時30分

(小児科のみ8時から開始)

※紹介状をお持ちの方は必ずその旨をお伝え下さい。

※上記時間以外で救急診療のお問い合わせは、病院代表番号にお電話をお願いします。



- 電車をご利用の場合
JR仙石線・下馬駅下車(駅前が病院です。)
- お車をご利用の場合
以前に比べて第一駐車場が狭くなりました。ご不便をお掛けしますが、第三駐車場に駐車し、送迎バスをご利用いただけるようご協力お願いいたします。

編集後記

いよいよ2017年の始まりです。昨年は政治面でも社会面でも、そして自然現象も含め良くも悪くも激動の年でした。世相を表す一文字の漢字は「金」でした。オリンピックの「きん」もあったのですが、私にはむしろ、「政治と金」の問題の「かね」の方が、インパクトが強い感じがしました。今号でも様々な院内外での行事や役に立つような内容を中心に掲載させていただきました。今後も読者の皆様に親しんでもらえるような記事を極力掲載できますよう努力して参ります。今年もよろしくお願いたします。(1)

公益財団法人 宮城厚生協会

坂総合病院

〒985-8506 宮城県塩釜市錦町16-5

電話 022-365-5175 (代表)

FAX 022-365-3620

http://www.m-kousei.com/saka/

